

平成30年度第2次愛荘町地域福祉活動計画

プロジェクト（基本計画）取り組み報告書



愛荘町地域福祉活動計画推進委員会
社会福祉法人愛荘町社会福祉協議会

目 次

- 1 ページ・・・・ 見守りネットワークプロジェクト
- 8 ページ・・・・ くらしサポートプロジェクト
- 17 ページ・・・・ ボランティアセンタープロジェクト
- 24 ページ・・・・ 福祉教育プロジェクト
- 36 ページ・・・・ 地域を守る災害支援プロジェクト

見守りネットワークプロジェクトの取り組み報告

平成30年度においては、「みんなが気軽にできる、さりげない見守りを広げる」を目的に推進していくために、何から取り組みを進めていくのかを検討し、モデル地域を選んで地域情報を聴き取る活動を進めました。

プロジェクトの推進会議の場で話すだけではなく、実際に委員が地域へ出向いて地域を見て、住民と話しすることでこれから取り組まなければならないことが見えてくると考えました。



1. モデル地域（斧磨・亀原）の聴き取り活動

平成31年の1月・2月に聴き取り活動を実施しました。（社協の見守りサポート会議として場を設けました。）

☆聴き取り内容☆

〈斧磨〉

- ・子ども・・小学生11人、中学生5人
 - ・障害者・・把握されている範囲ではない
- ◎地域の自慢できること
- ・子どもが礼儀正しいな
 - ・いきいきサロンを長年続けている

◎将来的な不安

- ・将来的に一人暮らし高齢者が増える可能性が高い。

◎現在の困りごと

- ・移動手段が限られてくること。

子どもは共通してあいさつをしっかりされていた！



斧磨自治会

〈亀原〉

- ・子ども・・小学生以下15人くらい
 - ・高齢者・・各班に2人くらい
- ◎地域の自慢できること
- ・新興住宅としてはまとまっているかな
→スポレクの取り組みとして、ボーリング等を企画した（そば打ち体験も）
- ◎将来的な不安
- ・2世帯が住める大きな住宅地ではないため、将来的な高齢化が予想される。

◎現在の困りごと

- ・交通面→高校生の通学路に堤防を利用しているが危険である。また、小学生の通学路もよく事故がある

※子どもの通学に関しての見守りが必要



亀原自治会

★見えてきた地域の課題

◎移動手段について

・高齢者の運転

➡ 80代になっても移動するために車の運転が必須になる。危険を伴う。

・移動支援が今後必要になると思われる。

➡ ニーズが高まるが担い手の確保が難しい。

◎将来的な孤立について

亀原 立地的に2世帯同居が難しいため、高齢者が残っていきそう。

斧磨 2世帯同居の世帯や敷地内同居もあるが、半数は2人世帯等であり高齢者世帯はいずれ増え
る。また、家族のつながりが希薄化している今の社会であり、同居だからと言って安心出来
ないのではないか。

➡ 世帯間でのつながりよりも、個人間でのつながりが今後必要と思われる。

2. 今後の取り組みについて

★モデル地区（斧磨・亀原）の良いところを発信していく。

あいさつ 両地区とも子どもがしっかりあいさつをされていた。

※子ども同士のあいさつはしっかりできているが、大人同士では同じ組以外の人とはあいさつができ
ていないことが多い。（出会う機会が少ない。亀原地区での意見）

つながり・関係づくりの「きっかけ」として「あいさつ」ができる関係を目指す!!

◎ 別の地区でも今回同様に聴き取りを進めていければ良い。

◎ 亀原地区に対する取り組み（住民が継続して行える活動!!）

・違う班の人と交流できる場づくり等が考えていけると良い。

（例）字内ウォーキング・カフェ



「おしゃれ・楽しい・おいしい」感じる活動がポイント

◎子どもたちにも話を聞いてみたい。（斧磨・亀原）

★あいさつ（声かけ）は、見守り活動の第1歩です！！

☆次年度に向けて

◎平成31年度は、斧磨・亀原以外の地域でも聴き取りを行っていこう。

※案を考えました。

大きい規模の自治会なら・・・蚊野・安孫子・東円堂

開発されてから年数の経った住宅地・・長野新町

新しい新興住宅地・・・メイタウン島川



これからの自治会や人のつながりづくりを考えるために、住宅地の状況を確認していこう！

「長野新町」「メイタウン島川」の自治会へ出向いて、住民の皆様に聴き取りを行っていきます。

見守りネットワークプロジェクトの聴き取り内容（斧磨）

○基本情報

- ・子どもの人数や状況は？

小中学生においては、小学生11人、中学生5人とのこと。

- ・障がい者の人数や状況は？

字内で障がい者の方はいないとのこと。

- ・区民が参加する活動はどのようなものがありますか？

運動会、夏祭り、サロン等。その他は字の総会を年に4回されている。

- ・区内にはどのような組織や団体がありますか？

◎村づくり委員会

心を結び合うふるさとづくり事業実行委員会として組織されている。

人権・教養部、福祉部、健康づくり部の部会から成っている。

○地域情報

◎地域の自慢出来ることは？（地域の良いところ）

- ・いきいきサロンを長年続けている。子ども会も年に1回している。

・子どもの礼儀が正しい。（子どもの方から挨拶をしてくれる。通学時に横断歩道で車が止まってくれたら、お辞儀をする等。）

◎将来の心配ごと（自分・家族・地域のこと）は？

- ・将来的に一人暮らし高齢者が増えてくる可能性が高い

⇒子どもと同居している世帯と、夫婦のみの世帯が約半数ずつである。そのため、今は夫婦だけで元気に暮らしているが、将来的に老々介護や一人暮らし高齢者になる可能性が高い。

- ・獣害が多い

⇒女性や子どもは猿に狙われやすい。車に傷をつけられたこともある。

◎地域内のつながりは？

薄れているという感覚はない。むしろ強まっていると感じている。

○災害、防災の活動

- ・過去に被害がありましたか？

過去に大きな被害が出た災害は、特になし。台風の時も、シャッターがめくれたり等の被害はあったが、目立って大きな被害といったものはなかった。

雪についてはよく降って積もったりするが、対策を練っている。（除雪については大きな機械を取り入れている）特別に困ったことはなかった。

- ・災害時の要配慮者について

見守り対象については、民生委員より夜に連絡を取って安否等の確認を行った。

- ・地域内の危険箇所などの情報

立地上、崖等の危険箇所はある。避難場所は秦荘幼稚園になるが、避難するには場所が遠すぎるという問題がある。

○地域の困りごとや課題は？

- ・移動手段が限られてくること

立地上、車がないと買い物をすることが出来ないため、移動については課題となってくる。

- ・子どもたちの通学について

小学校まで徒歩で片道45分ぐらいかかる。行き帰りになにかあった時の緊急連絡手段として携帯の所持が必要に思える。また、通学路防犯ブザー「愛ぼうくん」が周りに田んぼしかない場所に設置されているため、もしもの時に鳴らしても大人が気づけない。設置する場所について、検討が必要だと思われる。

見守りネットワークプロジェクトの聴き取り内容（亀原）

○基本情報

- ・ 1999年に自治会が出来て今年で20年目になる。
- ・ 世帯数は現在55世帯を把握している。自治会は3班に分かれている。
世帯の構成年代としては、45歳から55歳くらいが多いのではないか。
- ・ 高齢者の人数や状況は？
各班に2人くらいの高齢者がいるかなといった状況であり班の中であれば把握されているようである。
- ・ 子どもの人数や状況は？
小学生以下は15人くらい。外でも遊んでいる姿は見かける。
高校生の世代が一番多いのではないか？（子どもでは）
- ・ 区民が参加する活動はどのようなものがありますか？
総会、草刈りが年2回と夏祭りをしている。
自治会の奥の方に居住している者は全体的に出会うが、道路側の居住者は奥まで入らないので出会う機会がない。
夏祭りは、昔から参加率は変わらない状態である。
同じ班の方は、ある程度分かるが他の班になると分からない方もある。
- ・ 区内にはどのような組織や団体がありますか？
子ども会は対象世帯が少なくなり休会中である。

○地域情報

- ・ 地域の自慢出来ることは？（地域の良いところ）
世帯数も少なく新興住宅地としては、みんなまとまっている方だと思う。
今年は台風で夏祭りが中止になった。その他にスポレクの取り組みとしてボーリングなどをしていたが参加者も固定しているので、今年は企画を変えてそば打ち体験を企画した。（思うようには集まらなかつたが・・・）
- ・ 将来の心配ごと（自分・家族・地域のこと）は？
老人会が必要になってくるのかな。誰が最初に立ち上げるだろうか。
2世帯が住める大きな住宅ではないので、いずれは高齢者のみが残り高齢化が考えられる。
高齢になった時に、この自治会館を集まる場に出来ればと考えられる。集まる場をつくったとしても、みんな車があるので一部の者だけになるかとは考えられる。（これまで子ども会が使用することがメインでしたが休会となり、会館の使用頻度がすくない）
- ・ 地域内のつながりは？
隣近所は気にかけている。
避難時も声をかけたこともある。
近隣同士声をかけあっているが、少し離れると分からない。同じ班くらいは分かるのだが。

- ・子どもの関係でつながっていた関係は、子どもが大きくなった現在もありますか？
高校生まではつながりがあったが、それ以降は無くなる。
仲良くされているところはあると思いますが。
- ・外国籍住民の方との関係は？
現在は3世帯ある。すべてブラジルの方。自治会設立当初からおられる方もあり、自治会行事にも協力的である。
- ・地域や家庭で「あいさつ」はされていますか？
子どもたちから挨拶をしてくれる。
中学生や高校生になっても、昔から知っているので挨拶をしてくれる。

○災害、防災の活動

- ・過去に被害がありましたか？
数年前の台風時には避難指示があった。
実際に避難した人もいれば、夜間であったので避難していない人もいた。川沿いの住宅の人は避難されていた。
自治会から抜ける道路が、危険なため水があふれてからでは避難出来ない状態になる。
実際に堤防側の道路は封鎖になった。
避難所が、愛知川小学校からつくし保育園に変わった。このことは知らない人もいた。
日本電産社屋も避難所になっていたのではないかとの意見有り。
今年の台風時は、停電になった。
緊急放送設備も停電で使えなくなった。自治会内の防災マイクも同じであった。区長から各戸に呼びかけにいこうとしたが、停電で家のチャイムが鳴らず確認が出来なかった。町に車での呼びかけを依頼した。(検討をされ1時間後くらいに来られた)
- ・災害時の要配慮者について
世帯状況の名簿は区長が確認。年度で移動の確認をしているが強制ではない。
- ・地域内の危険箇所などの情報
自治会から出る生活道路に危険箇所がある。(交通面、災害面)
カーブミラーの破損や電柱をなくすことについて等、交通に関するることは区より町へ要望を出している。
1年に1回くらいは交通事故がある。
川沿いの住宅は水害などの影響も考えられ災害に関する意識は高い。
- ・災害情報はどこからかくにんするのか？
スマホ等から情報を得る方が多い。
防災無線も状態が悪くノイズも大きいのではっきり分からぬことがある。

○地域の困りごとや課題は？

- ・交通面(生活道路)
8号線に抜ける道と堤防沿いの道しかない。
子どもたちの通学(高校生)JRの駅に向かうため堤防沿いを利用しているが危ない、防犯灯がほしい。
見守りに関して言えば、子どもたちの通学に関しての見守りが大きい。

- これが必要だと考えること。
 - ・車が乗れなくなると、様々な面で不便になることは考えられる。
 - 町ではどのようなサービスなどがあるのか？
- ★食事の面では配食事業や買い物についても、自宅へ配達してもらえるサービスが増えていることを伝える。移動面では、タクシーの補助やあいのりタクシーなどがある。また細かなニーズに対しては、生活支援のボランティア活動等も現在検討をしている。
- ・あいのりタクシーは使いにくいことも聞く、例えば、移動図書や移動販売などもあるところも聞きますが、こういった地域へ来ていただける移動サービス（移動役場など）があればと考える。

【くらしサポートプロジェクトの報告】

みんながつながり あなたを支えます

「生きづらさ」を見つめよう：障がい者の高齢化をテーマに

障がいの方々が高齢になった時に起こる問題と

親の高齢化

介護保険制度への移行

サービスの不足

地域との関わり

虐待

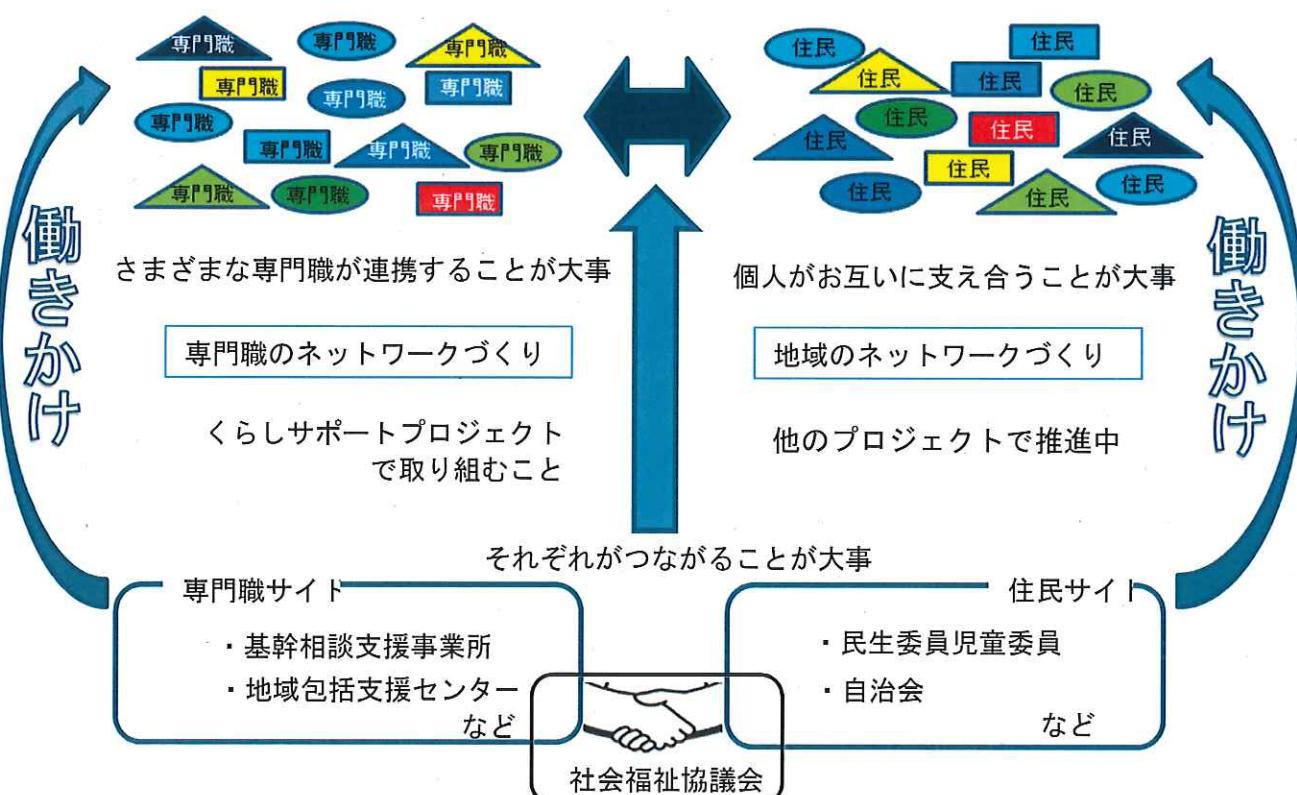
権利擁護

など？

実態を知るために

障がいを持つ高齢者のデータ化（数値化）（別紙参照）

くらしサポートプロジェクトの方向性は？



次年度に向けて

相談支援者の対応できることには、制度による枠がある。それにより、制度のはざまやそれらによる不都合が生じている。相談支援者単独では解決できない問題は多々ある。

相談支援者の手の届かないところをどうするのか

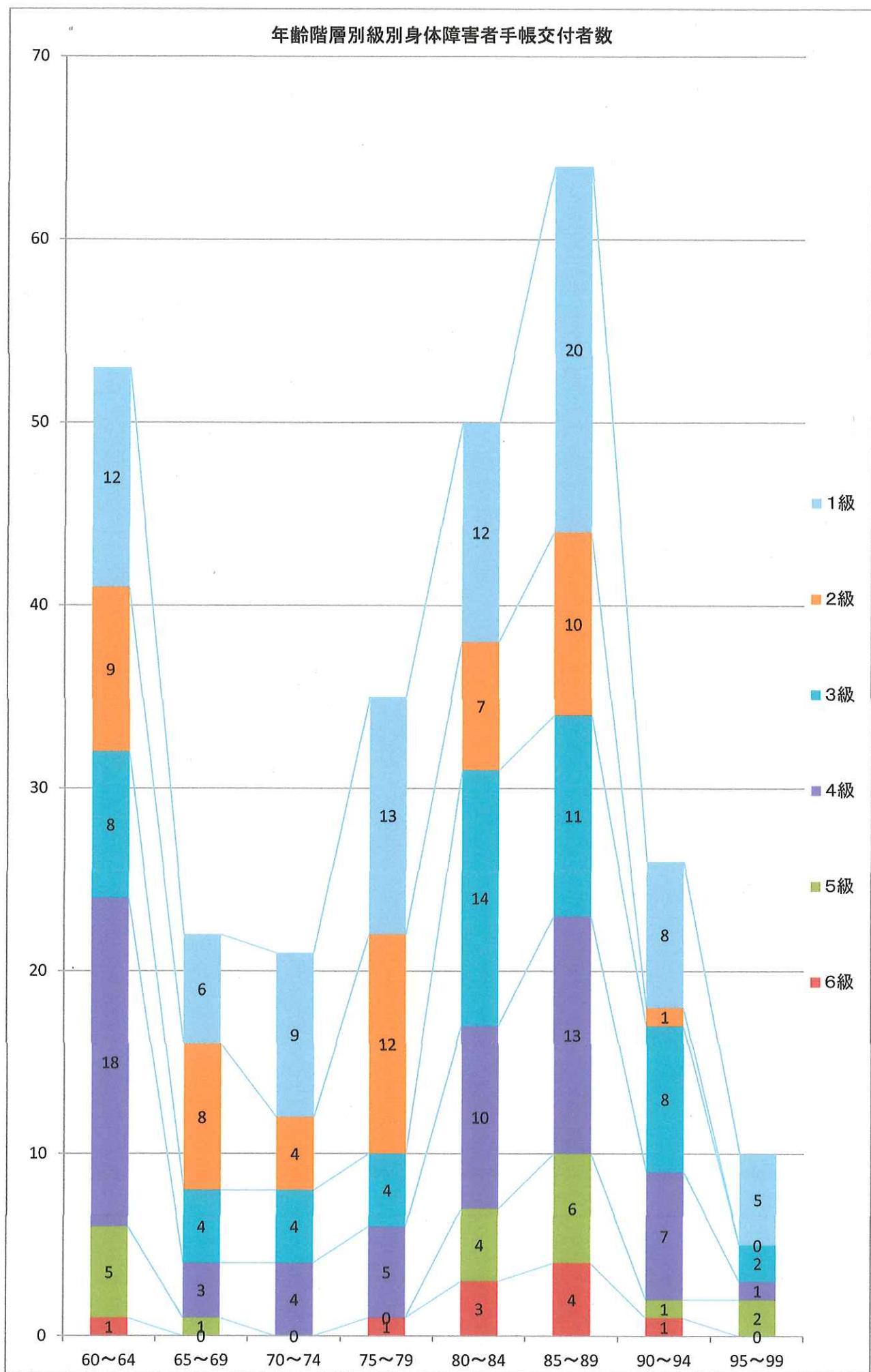
専門職のネットワークづくり

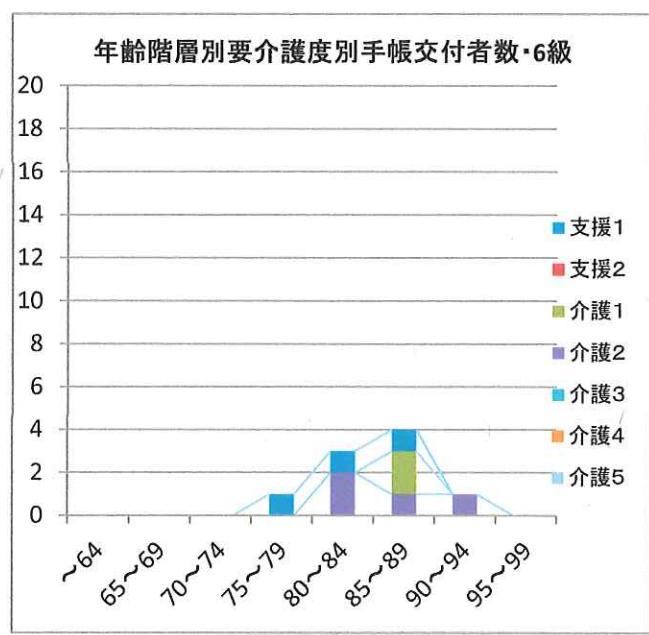
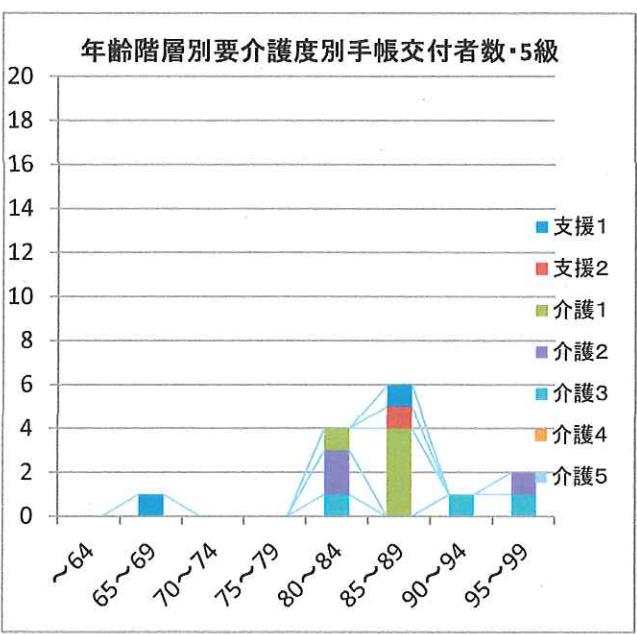
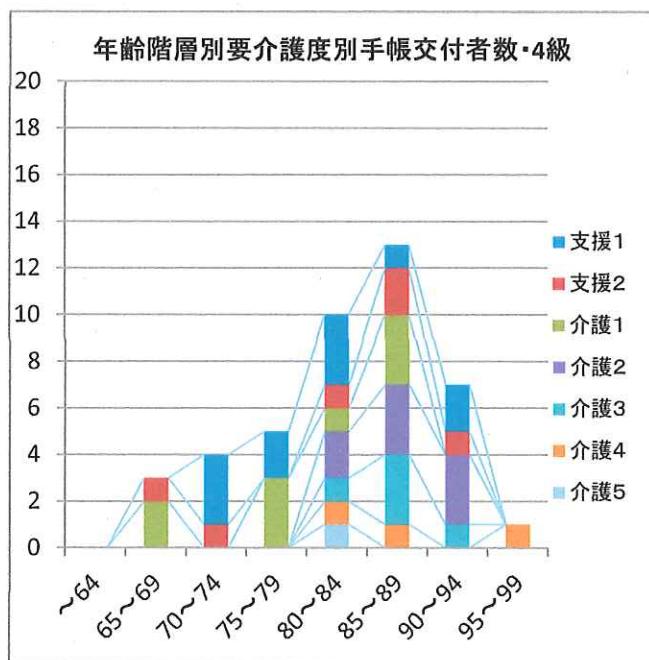
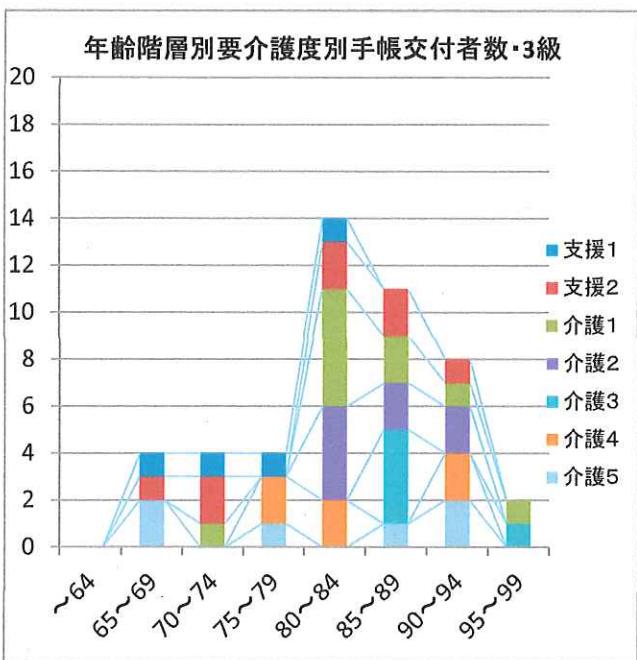
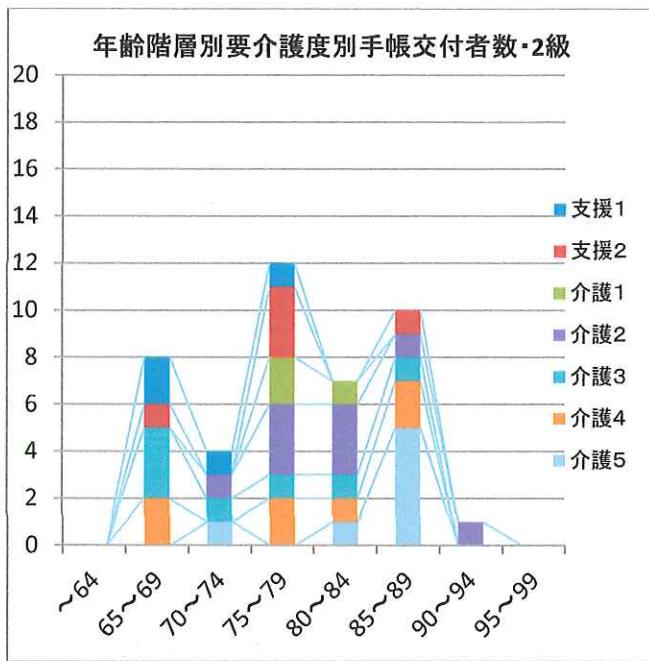
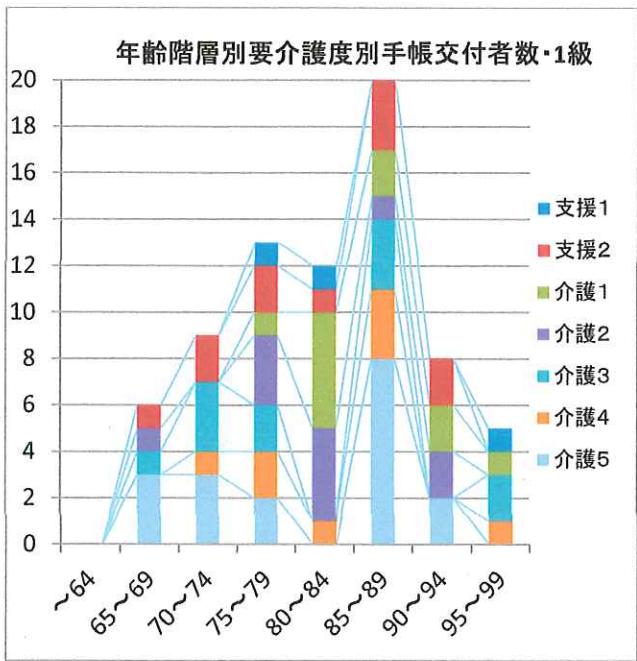
専門職、住民さんを交えた

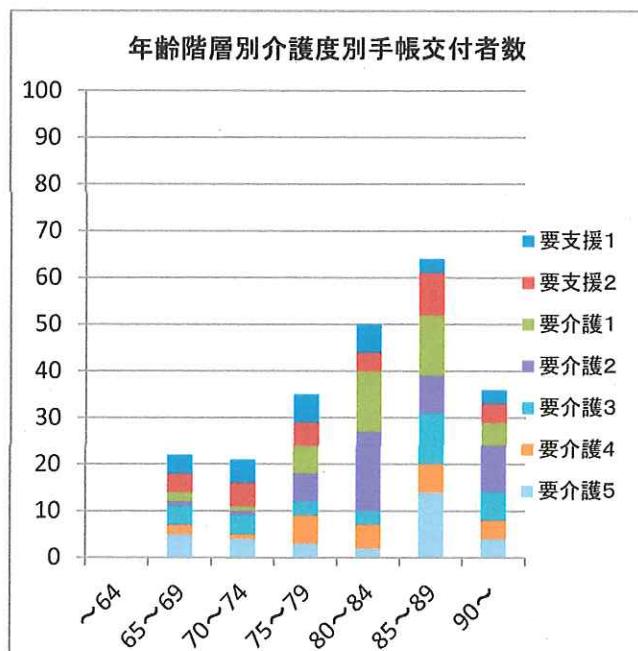
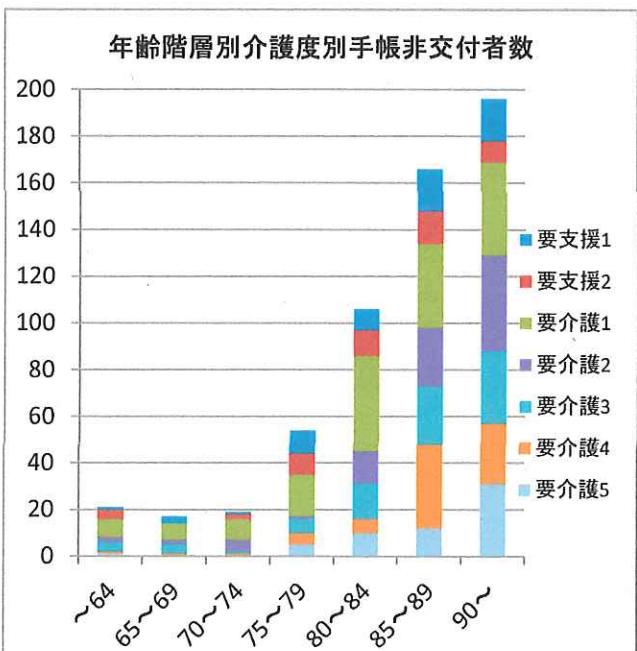
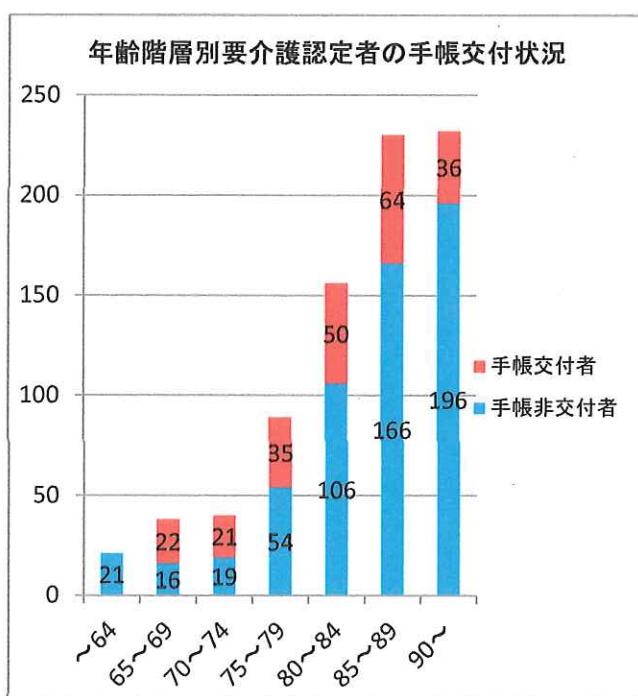
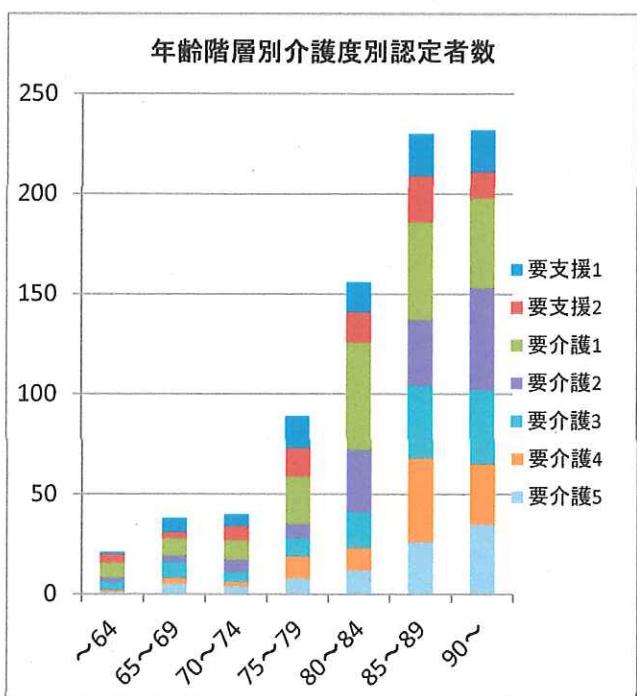
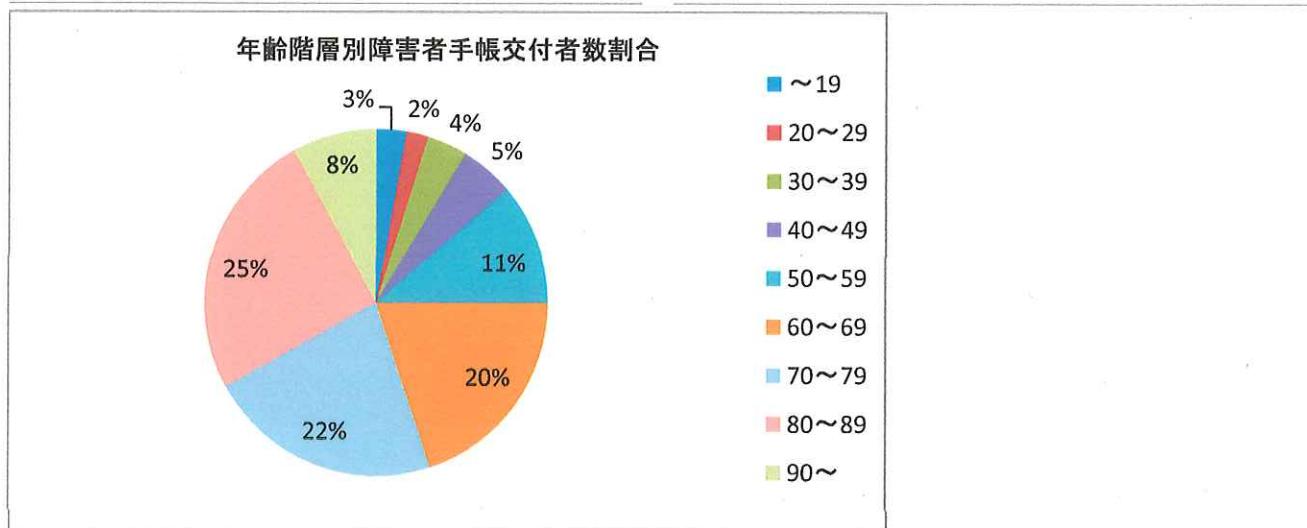
ワークショップ

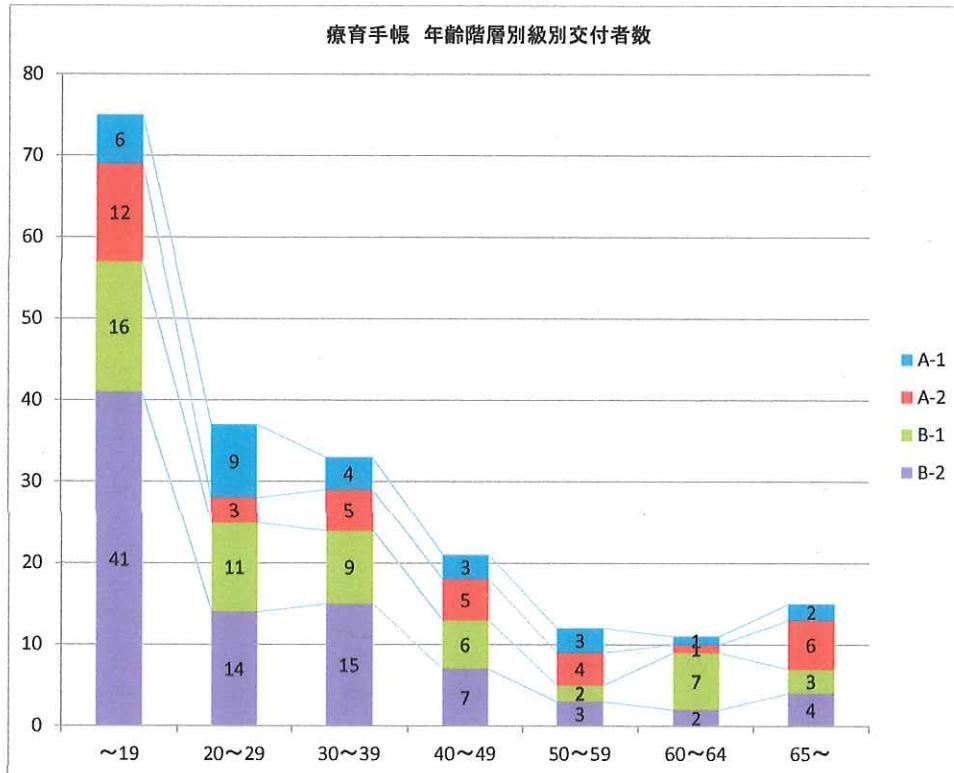
を開催しよう！

年齡階層別級別身體障礙者手帳交付者數









		~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99
要支援1	男性								
	女性								
要支援2	男性		B2(1)						
	女性								
要介護1	男性		B2(1)		B2(1)				
	女性			A2(1)					
要介護2	男性								
	女性			B1(1)		B1(1)			
要介護3	男性								
	女性			A(1)					
要介護4	男性				B2(1)				
	女性				A2(1)				
要介護5	男性		B(1)		A1(1)				
	女性								

表記は級(人数)

愛荘町内療育手帳交付者数

年代別 級別人数

~19 20~29 30~39 40~49 50~59 60~64 65~

A-1	6	9	4	3	3	1	2	28
A-2	12	3	5	5	4	1	6	36
B-1	16	11	9	6	2	7	3	54
B-2	41	14	15	7	3	2	4	86
合計	75	37	33	21	12	11	15	204

年代別 男女別 級別人数

~19 20~29 30~39 40~49 50~59 60~64 65~

男性	A-1	3	8	3	2	3	0	1	20
	A-2	7	3	2	3	3	1	3	22
	B-1	10	7	3	2	0	3	1	26
	B-2	30	5	11	3	1	1	3	54
		50	23	19	10	7	5	8	122
女性	A-1	3	1	1	1	0	1	1	8
	A-2	5	0	3	2	1	0	3	14
	B-1	6	4	6	4	2	4	2	28
	B-2	11	9	4	4	2	1	1	32
		25	14	14	11	5	6	7	82
合計		75	37	33	21	12	11	15	204

級別手帳交付者数

~64 65~69 70~74 75~79 80~84 85~89 90~94 95~99

男性	A-1				1					1	6
	A-2									0	
	B-1		1							1	
	B-2		2		1	1				4	
		0	3	0	2	1	0	0	0	6	
女性	A-1									0	5
	A-2			2	1					3	
	B-1			1		1				2	
	B-2									0	
		0	0	3	1	1	0	0	0	5	

0 3 3 3 2 0 0 0 0 11 11

~64 65~69 70~74 75~79 80~84 85~89 90~94 95~99

要支援1	男性								
	女性								
要支援2	男性		B2(1)						
	女性								
要介護1	男性		B2(1)			B2(1)			
	女性			A2(1)					
要介護2	男性								
	女性			B1(1)		B1(1)			
要介護3	男性								
	女性			A(1)					
要介護4	男性				B2(1)				
	女性				A2(1)				
要介護5	男性		B(1)		A1(1)				
	女性								

表記は
級(人数)



		~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99
要支援1	男性								
	女性		2(1)						
要支援2	男性								
	女性								
要介護1	男性								
	女性								
要介護2	男性								
	女性								
要介護3	男性								
	女性		1(1)			2(1)			
要介護4	男性		2(1)		2(1)				
	女性								
要介護5	男性								
	女性			1(1)	2(1)				

表記は級(人数)

愛荘町内精神障害者保健福祉手帳交付者数

年代別 級別人数

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~	
1級	1	0	2	2	1	1	3	10
2級	4	8	15	10	15	6	10	68
3級	2	7	10	10	5	0	2	36
合計	7	15	27	22	21	7	15	114

年代別 男女別 級別人数

		~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~	
男性	1級	1	0	2	2	0	1	1	7
	2級	2	4	10	8	8	5	4	41
	3級	1	3	5	6	3	0	0	18
		4	7	17	16	11	6	5	66
女性	1級	0	0	0	0	1	0	2	3
	2級	2	4	5	2	7	1	6	27
	3級	1	4	5	4	2	0	2	18
		3	8	10	6	10	1	10	48
合計		7	15	27	22	21	7	15	114

表記は級(人数) ~64 65~69 70~74 75~79 80~84 85~89 90~94 95~99

要支援1	男性								
	女性	2(1)							
要支援2	男性								
	女性								
要介護1	男性								
	女性								
要介護2	男性								
	女性								
要介護3	男性								
	女性	1(1)							
要介護4	男性	2(1)							
	女性								
要介護5	男性								
	女性	1(1) 2(1)							

【ボランティアセンタープロジェクトの報告】

ボランティアセンタープロジェクトでは、これまでよりボランティアセンター運営委員会として取り組んできたボランティアに関する事業・活動や課題検討を引き続き実施するとともに、昨年度から検討してきた「生活支援ボランティア活動」についての取り組みや、新たなテーマとして「災害ボランティアセンター」についての協議をおこないました。

① 「生活支援ボランティア活動」について



運営委員会では、平成29年度よりワークや話し合いを通じて生活支援ボランティアの活動について何が出来るのか？必要なのか？を協議してきました。

協議の中では、地域の困りごとの整理や困りごとに対してボランティアセンターで出来ることの整理をおこない、生活支援ボランティア活動の「必要性」や「活動づくりのしくみ」が見えてきました。

今後の方向性として、先進地研修で学んだ立ち上げのきっかけである「生活介護支援センター」の取り組みと連携できるよう進めていきたいと考え、愛荘町地域包括支援センターと相談しながら、生活支援ボランティア活動の組織化（まずは人材育成）に向けた取り組みを、生活支援センター登録者の研修に参画する取り組みを始めました。

また、社会福祉協議会としても生活支援活動の取り組み（移動支援を中心とした）を進めるための検討を平成31年度よりスタートする予定です。

生活支援については、自治会でも常に課題となるテーマであり、住民同士の助け合いで出来る活動としてどのように進めることができるのか、運営委員会で取り組んだ課題整理や活動に向けての手法を地域に活用していきます。

② 「災害ボランティアセンター」について

わが国では、毎年各地で災害が発生しています。愛荘町でもいつ大きな災害が発生するかわかりません。

大規模な災害発生時には、全国各地から災害支援のボランティア活動おこなわれ、災害ボランティアセンターの役割が重要です。そこで、愛荘町で災害ボランティアセンターを設置することになった場合を考えて、準備を進めていく必要があります。

このプロジェクトでは、設置運営のマニュアルづくりや訓練の実施だけではなく、復興に大切な「地元住民の力」を考えて、住民が主体となる災害ボランティアセンターの役割を中心に、行政とも一緒に話し合いを始めました。



【取り組み①】

研修会の開催

高島市社会福祉協議会の職員様から、平成25年台風18号災害時における高島市災害ボランティアセンターの取り組みや、現在の高島市社会福祉協議会で取り組まれている災害ボランティアセンターや災害支援ボランティアに関する活動内容について学びました。

【取り組み②】

県社協で発行されているガイドラインから、災害ボランティアや災害ボランティアセンターの意義について確認する。

また、グループワークとして「災害が発生したらどんな困りごとがあるだろうか?」また、「困りごとに関する支援」「何処がその支援をするのか」を検討する。

【委員から意見】

- ・各関係機関や行政との連携が大切である。
- ・町防災訓練に参加し、シミュレーションして対策をする。訓練の繰り返しが大事。
- ・関係機関の役割分担。(システム作り、連絡網)
- ・自主防災組織の機能を高める。連携していくことが大事。
- ・ボランティアセンターの位置づけが明確になると良い。
- ・災害が発生する前から連絡協議会などの協議ができる場ができれば良い。

③「愛荘町ボランティアセンター事業」について

計画の取り組み内容に記載している内容を基本として、ボランティアセンターでは各種の事業活動を進めてきました。(平成30年度の取り組みは、報告書のとおりである。)



★次年度以降の取り組みについて

平成30年度は、「災害ボランティアセンター」の協議を引き続き進めていくとともに、ボランティアやボランティアセンターの住民周知に向けた企画や活動登録の少ない性別・年齢などを対象とした企画をおこなっていきます



平成30年度 ボランティアセンターの取り組み報告

①ボランティア登録状況

H28 年度

個人ボランティア：413名

ボランティアグループ：42グループ

災害支援ボランティア：6名

H29 年度

個人ボランティア：443名（30名増）

ボランティアグループ：41グループ（1グループ減）

災害支援ボランティア：16名（10名増）

H30 年度（2月28日）

個人ボランティア：491名（48名増）

ボランティアグループ：45グループ（4グループ増）

災害支援ボランティア：20名（4名増）

●ボランティアセンターの要綱改正をおこなう。

- ・子どもボランティアの登録制度を新設する。

子どもボランティア登録者 10名

* チョボラ体験を終えた子どもたちが継続した活動へつながる。

②ボランティアコーディネート

H28 年度

相談 76件（内コーディネート 67件）

H29 年度

相談 93件（内コーディネート 72件）

H30 年度（2月28日時点）

相談 79件（内コーディネート 55件）

●ボランティアコーディネート

- ・芸能ボランティアの調整事務の効率化を図る。

コーディネートの月別一覧表を作成する。

地域ボランティア（芸能）の調整については、早めに連絡をおこなっていただくよう伝える。

託児ボランティアの調整事務も改善を図る。学校支援部会とも調整。（年間計画で調整する）

③ボランティア情報発信

H28年度

- ・ボランティアだより：年間4回発送（6月、9月、12月、3月）
- ・社協広報：年間2回掲載

H29年度

- ・ボランティアだより：年間4回発送（6月、9月、12月、2月）
- ・社協広報：年間2回掲載

H30年度

- ・ボランティアだより：年間4回発送（5月、7月、9月、2月）
- ・社協広報：年間1回掲載

●ボランティア情報の発信

- ・ボランティア活動紹介メニューのリニューアル
新たなグループや地域活動で使えるレク用品等の紹介を冊子にまとめる。
- ・ボランティア通信の発行
年4回発行 ボランティア登録者へは郵送にて案内をする。同時に、ボランティア募集チラシ等なども添付している。
市民への啓発のため、通信については全戸回覧もおこなう。

④夏休みボランティア体験（チョボラ体験）

対象：愛荘町民（全年齢対象）

内容：夏休みの期間に、ボランティアに興味のある方々や学生等が、気軽に・楽しく・ちょこっと参加できるボランティア活動を実施する。

1. 子育て支援ボランティア体験…3日間開催。延べ16名参加。
2. かき氷訪問ボランティア体験…ふれあい共同作業所へ訪問。12名参加。
3. 調理ボランティア体験…愛知川赤十字奉仕団の方々に協力していただき、ボランティアカフェと共同開催。4名参加。
4. ジャグリング体験…珍ジャグクラブの方々に協力していただき、芸能ボランティア体験として、ジャグリングを体験した。練習日と発表日あわせて2日間で開催。延べ13名参加。

参加：全戸配布にて案内し、27名の参加がありました（H29年度参加10名）。

（小学生23名、大人4名）

延べ人数： 45名（平成30年度）

23名（平成29年度）

8名（平成28年度）



●評価

今年度は全戸配布で案内をしたため、大人の参加者が昨年度よりも増加した。周知方法を工夫して、学童にチラシを持っていき、学童を利用している児童に直接配布した。その結果、子どもの参加者が昨年度よりも14名増加した。

今回は初めて他のボランティア事業（ボランティアカフェ）と共同開催を実施した。ボランティアカフェの参加者にチョボラ体験を実施していることを知っていただく良い機会となった。チョボラ体験に参加した方からも、ボランティアカフェに参加してみたいという意見もいただいた。

⑤サンタクロース訪問（チョボラ体験）

実施：平成30年12月21日（金）17:45～20:00

内容：ボランティアさんにサンタクロースになっていただき、応募のあったご家庭を訪問し子どもたちへプレゼントを渡す。

訪問先：H30年度：12世帯【愛知川8世帯・秦荘4世帯】

H29年度：18世帯【愛知川9世帯・秦荘9世帯】

ボランティア数：6名（H29年度6名）



●評価

今年度は、ボランティアの内2名が学生であった。また、ほとんどの方が初めて参加される方であったが、ボランティア自身がサンタになりきって、子どもたちを喜ばせてくださいました。ボランティアから来年度もまた参加したいとの声もいただいた。

⑥ボランティアカフェ

実施：①6月26日（火）13:30～15:30…25名参加（内施設関係者4名）

グループ対抗レクリエーション大会

内容：社協備品を活用したレクリエーションをグループ対抗で行った。

②8月21日（火）10:00～12:00…27名参加（内施設関係者3名）

つながるワークショップ

内容：受け入れ施設やボランティアグループの方々にそれぞれブースを担当していただき、製作を行った。またチョボラ体験と同日開催とし、歓談の時間にチョボラ体験で調理したカレーを食した。

③10月16日（火）13:30～15:30…15名参加（内施設関係者4名）

ハロウィンパーティー

内容：ハロウィンにちなんだ製作とお菓子作り

④12月4日（火）10:00～15:30…19名参加（内施設関係者3名）

クリスマスラッピング講座 講師：城野 富美子さん

クリスマスケーキ作り

⑤2月26日（火）13：30～15：30…37名参加（内施設関係者1名）

愛荘町ボランティアセンターに登録されているボランティアグループの活動紹介

目的：ボランティア活動者とボランティアの受入機関がつながる場として、ボランティア同士や活動を始めたいと考えている方が情報交換できる場を提供し、町内ボランティアに関わるネットワークを広める。



●評価

今年度のボランティアカフェでは、季節に応じたイベント形式で行ったものが多く、全体的に参加してくださった方自身が楽しめる企画となった。5回目のボランティアカフェでは、実際に芸能ボランティアとして活動されているグループの方に活動紹介をしていただいた。芸能ボランティアグループがどのような活動をしているのかを知ることが出来たよかったですとの声をいただいた。また、他のボランティアグループの活動についても知りたいとの意見もいただいたので、来年度も継続していきたい。

⑦愛荘町地域支え愛ポイント制度（H31. 2. 28 現在）

- ・登録者数 総数386名（男性92名・女性294名）
- ・年代別

10・20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
3名	8名	14名	32名	180名	143名	6名	386名

- ・小学校区別

秦荘東	秦荘西	愛知川東	愛知川	合計
102名	66名	77名	141名	386名

- ・ポイント交換件数 23件

・新規登録の推移	平成28年度	199名
	平成29年度	61名
	平成30年度	126名

●評価

支え愛ポイント制度の登録者増加

- ・ボランティアグループへの働きかけをおこない登録者の増加につながる。

平成30年度登録者数386名 126名の新規登録 (平成31年2月現在)

⑧災害支援に関する取り組み



【災害支援ボランティアの養成】

- ・災害ボランティア養成研修の開催、登録
登録者20名（5名増）
- ・災害支援活動のボランティア情報の発信、コーディネート
県のボラバスへの参加（2回 京都・岡山）

災害ボラセンについての検討。災害ボランティア登録者と合同で、町防災訓練について情報交換する場を設けた。登録者6名参加

【災害ボランティアセンター】

愛荘町災害ボランティアセンターの設置・運営について、ボランティアセンター運営委員会で協議を始める。研修会1回・協議2回



●評価

- ・町危機管理対策室の職員様とも一緒に話し合いに参画いただき、行政とも連携しながら進めることができた。
- 町で災害ボランティアセンターが必要になった場合を想定して、災害ボランティアセンターで住民が主体となるところを中心に検討を進めていきたい。

福祉教育プロジェクトの取り組み報告

平成29年度に引き続き「子どもたちを中心に置いた取り組み」について、町内各学校への聞き取り訪問、福祉学習の指導・調整・視察等を通した情報の把握・整理、福祉学習支援メニューのリニューアル等を中心に行いました。

情報の把握を通して、学校に対して新しい取り組みを増やすのではなく、今ある学習にどう関わっていけるかがポイントであることを確認し、そこに向けて提案できる福祉学習支援メニューのリニューアルを行いました。

★町内各学校福祉学習の取り組みを把握・整理・見える化

町内各学校への聞き取り訪問、本会からの福祉学習の指導・調整状況を集約し、①社協職員が指導・調整している福祉学習、②学校が独自で指導・調整している福祉学習に分類をした一覧表を作成したところ、各学校の福祉に関する学習の取り組み内容が明確となりました。

各学校の福祉学習現場へ推進委員が視察し、客観的に見て感じた意見を出し合い、今後の指導・調整の向上を図りました。

また、福祉学習の取り組みをまとめた映像を作成し、視覚的に伝わりやすい資料が加わりました。



★福祉学習支援メニューのリニューアル

既存の福祉学習支援メニューのリニューアルを行いました。先生側の知りたい情報を簡潔に記載し、写真を多く取り入れることで、学習の様子・支援内容がわかりやすいように努めました。今年度新しく考案・実施したプログラム等、現状に沿った内容を取り入れることでメニュー内容に広がりが生まれました。

来年度から新メニュー持参のもと各学校を訪問し、学校との連携をさらに深めていきます。

★平成31年度以降の取り組みについて

「子どもたちを中心に置いた取り組み」については、ひとまず完結し、本プロジェクトの最終目標「学校・地域・当事者など、すべての方が関わる福祉教育」に向けて、次年度以降は「大人への福祉意識を高める取り組み」を進めていきます。まず「大人向けに福祉の何を伝えていくのか」、その内容・仕組み・手法を検討し、「企業」、「地域」への情報収集・取り組みへの検討・実施を進めています。

愛荘町内各学校 福祉学習の取り組み一覧表（平成29・30年度）

	社会職員が指導・調整している 福祉学習	学校が独自で指導・調整している 福祉学習
愛知川東小学校	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 【4年生】 ・車イス体験：5/7、5/21、5/21 ・アイマスク体験：1/29 ・盲導犬についての学習(指導：山野ひろみさん)：2/4
	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 【4年生・時期2学期/24時間】 ・テープ「みんなにやさしい町」 ・①車イス体験、②アイマスク体験、③点字体験、④盲導犬の学習、⑤グループでのテーマ学習。 ・⑥⑦は直接指導。③、⑨は学校から直接依頼。①～⑧を毎年すべて実施しているわけではない。 ※以前は上記①・②の体験についても本会に指導・調整の依頼があり、対応していた。
愛知川小学校	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 【4年生】 ・点字体験(指導：波野征三さん)：10/24
	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 【4年生】 ・車イス体験：6/29、7/6 ・手話体験(指導：手話サークルゆびゆり)：10/3 ・アイマスク体験 ・点字体験(指導：波野征三さん)：10/17
秦荘西小学校	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 【3・4年生】 ・ユーバーサルデザインについて、収録内を探索。 【3年生】 ・点字体験(指導：波野征三さん) 【4年生・時期10月】 ・アイマスク体験 【4年生・時期2学期】 ・アイマスク体験：9/27 ・点字体験(指導：波野征三さん)：10/18
	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 【3年生】 ・「だれもが幸せになる世の中に」 ・コスモス共同作業所への訪問・見学・体験。
愛知中学校	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 【3年生】 ・認知症についての学習(認知症キャラバンメイト)。 ・痴呆防止教育の講演会。 【4年生】 ・高齢者、年金についての授業。 ・保育体験実習(子どもとのふぶきあい)。
	【平成29年度】 ・手話体験(指導：手話サークルゆびゆり)	【平成30年度】 【1年生】 ・「福祉体験を通して、互いの存在を理解したり、自他を養する心情を育てる」 【2年生】 ・手話体験(指導：手話サークルゆびゆり)：1/28
秦荘中学校	【平成29年度】 ・手話体験(指導：手話サークルゆびゆり)	【平成30年度】 【1年生】 ・「テープ「福祉体験を通して、互いの存在を理解したり、自他を養する心情を育てる」 【3年生】 ・福祉体験学習。 ※以前は3年生を対象に「災害・防災」に関する福祉学習を本会が指導していた。
	【平成29年度】 ・指導・調整なし	【平成30年度】 ●愛知高校 【2年生・時期1月】指導・社説員 ・愛の郷・わんぱくひろば・ディサービス・ふれあい共同作業所の施設見学、災害ボランティア活動についてのDVD放映。 ●愛知高等養護学校 ・福祉のお話、災害ボランティア活動についてのDVD放映。 ・地図との交流： ①市立円堂まちづか・生徒とのグランドゴルフ交流：9/27 ②東田舎まちづか・生徒とのグランドゴルフ交流：9/26、9/20、③愛知川幼稚園：5/24、10/4、④愛知川図書館：6/21、11/29 ●愛知高等養護学校 ・地域との交流 ①市立円堂まちづか・生徒とのグランドゴルフ交流：9/22 ②東田舎まちづかとの交流：5/24、11/1

平成30年度各学校等への福祉学習の取り組み状況報告(9月現在まで)

	<p>☆愛知川東小学校</p> <p>☆車イス体験 【4年生 2クラス (56名)】 指導：社協職員</p>
	<p>1日目</p> <p>日 時：平成30年5月7日(月) 4-1 クラス：8:50～10:25・4-2 クラス：10:40～12:15 場 所：愛知川東小学校・体育館 内 容：①福祉(社協)とは、車イスの使い方説明。 ②車イスを押してみよう(介助する人のポイントなど)。 ③実際車イスに乗ってみよう。</p>
内 容	<p>2日目</p> <p>日 時：平成30年5月21日(月) 4-1 クラス：8:50～10:25・4-2 クラス：10:40～12:15 場 所：愛知川東小学校・校内敷地 内 容：班に分かれ、校内敷地内での坂・段差・狭い道・砂利道などを車イスで体験。</p>
	<p>3日目</p> <p>日 時：平成30年5月28日(月) 4-1 クラス：10:40～12:15・4-2 クラス：13:40～15:15 場 所：平和堂アモール・近江鉄道踏切 内 容：班の中で写真係・インタビューコー係・車イス体験係・記入係に分かれてローテーション。 ① 平和堂にて：班に分かれ、車イスでの買い物。 ② 工レベーター・多目的トイしを体験。 ③ 踏切で車イス体験。</p>

☆秦荘西小学校

☆車イス体験
【4年生2クラス（39名・1組20名・2組19名）】
指導：社協職員

1日目

日 時：平成30年6月29日（金）
1組のみ：10:40～12:15・2組のみ：13:40～15:15
場 所：秦荘西小学校・体育館
内 容：
① 福祉（社協）とは、車イスの使い方説明。
② 車イスを押してみよう（介助する人のポイントなど）。
③ 実際車イスに乗ってみよう。

内 容

【1日目】



【2日目】

日 時：平成30年7月 6日（金）
2組のみ：10:40～12:15
平成30年7月 10日（火）
1組のみ：13:40～15:15
場 所：秦荘西小学校内
内 容：
・校内を車イスに乗って班ごとに移動し、エレベーター、靴箱、トイしなどを利用する。
・教室に戻り、各場所の体験で気づいたことなどを班でまとめ、発表。



☆えちっ子クラブ（愛知川東小学校区域内・学童保育所）

☆視覚障がいについての学習
【学童クラブ児童 1～2年 46名】
指導：社協職員

日 時：平成30年8月6日(月) 13:30～14:30
場 所：えちっ子クラブ

内 容：
①見えにくい・視覚障がいを疑似体験するメガネを作る。
②製作したメガネをかけ、グループで何を触っているのか
当てるクイズ。
電車・時計・シャンプーケース・焼きそばケース
ボンド・カレンダーなど



☆あいしお福祉探偵団

☆福祉学習を取り入れたキャンプ

【町内各小学校 4～6 年生 20 名】

1日目

- 日 時：平成 30 年 7 月 31 日(火) 8:00～17:30
場 所：愛の郷、グリーンパーク山東、米原市民体育館
内 容：※福祉学習の内容のみ抽出
- ① 車イスの使い方説明。車イスに乗り、段差を越える。
本棚の本を取るなどを体験。
- ② ボッチャ体験(障がい者スポーツ)・練習
滋賀県障害者福祉センターの方から指導。



2日目

- 日 時：平成 30 年 8 月 1 日(水) 13:00～17:30
場 所：愛の郷、愛知川体育館
内 容：※福祉学習の内容のみ抽出
- ① ボッチャ体験(障がい者スポーツ)・試合
ユニスボ守山さんとの交流試合。



平成30年度各学校等への福祉学習の取り組み状況報告(H30.9月～H31.3現在まで)

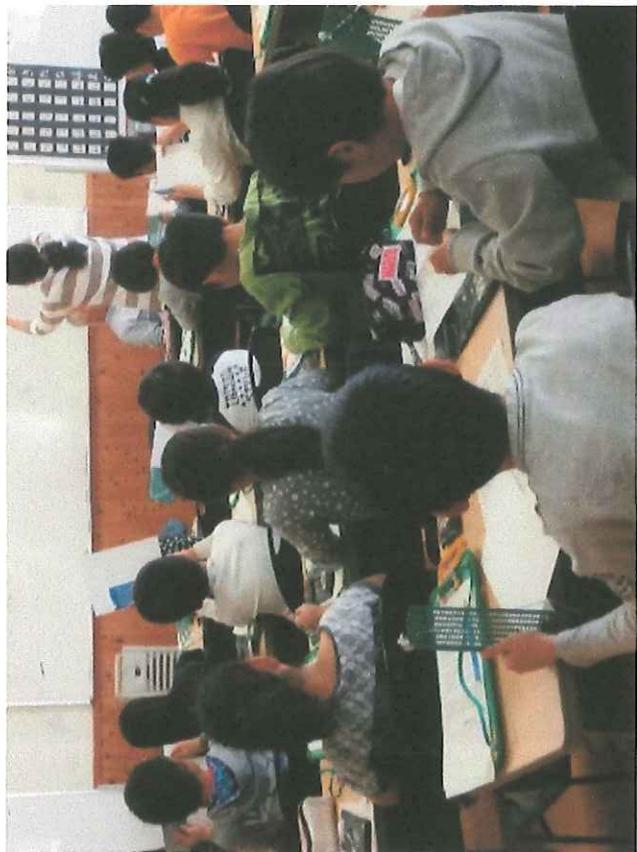
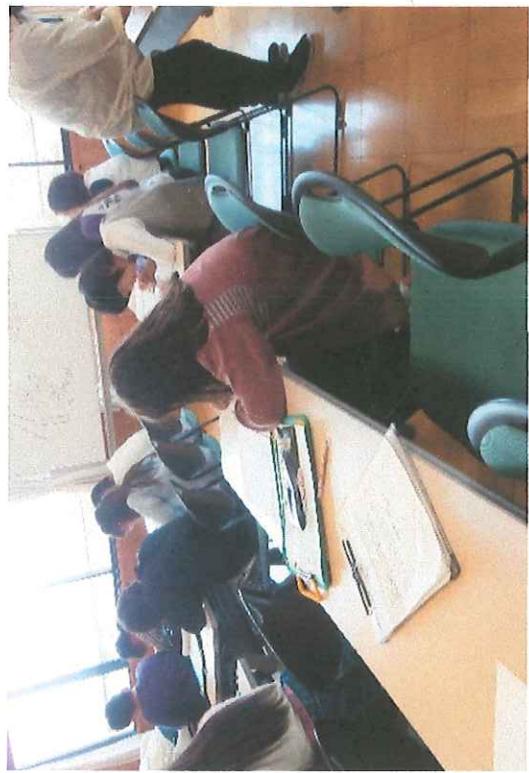
	<p>☆愛知川東小学校</p> <p>【4年生 2クラス(66名・1組32名・2組34名)】</p> <p>☆アイマスク体験</p> <p>日 時：平成31年1月29日(火) 4-1組：8:50～10:25・4-2組：10:40～12:15 場 所：愛知川東小学校教室・廊下 等 指 導：社協職員</p> <p>内 容：①視覚障がいについてのお話。 ②視野狭窄・弱視・全盲について、各メガネ等を使用して体験。 ③アイマスクを使用し、学校内でのガイドヘルプ体験。</p>   
	<p>☆盲導犬についての学習</p> <p>日 時：平成31年2月4日(月) 2クラス合同 9:40～11:30 場 所：愛知川東小学校・教室 指 導：山野ひろみさん(視覚障がい当事者・盲導犬利用者)</p> <p>内 容：①視覚障がい者の生活の様子がわかるDVD視聴。 ②山野さんのお話(生活上の困りごと、工夫など)。 ③児童からの質問時間。</p>   
	<p>☆学習の振り返り</p> <p>日 時：平成31年2月27日(水) 13:40～14:25 場 所：愛知川東小学校・教室 指 導：担任の先生</p> <p>内 容：①上記、視覚障がいについての体験等を終えて、気づいた・学んだこと等を各児童が新聞等にまとめ発表。</p>

☆愛知川小学校

【4年生85名】
☆点字体験

日 時：平成30年10月24日(水)
10:30～12:00

場 所：愛知川小学校・教室
指 導 容：浅野征三さん(視覚障がい当事者)
①浅野さんのお話(生活上の困りごと・工夫等)。
②点字について・体験。
③児童からの質問時間。



内 容

	<p>☆秦荘西小学校</p> <p>【4年生2クラス(39名・1組20名・2組19名)】</p>
	<p>☆手話体験</p> <p>日 時：平成30年10月3日(水) 2クラス合同：9:30～11:20 場 所：秦荘西小学校・多目的室 指 導：手話サークル「ゆびゆり」のみなさん 内 容：①聴覚障がい者の生活の様子がわかるDVD視聴。 ②当事者からのお話(生活上の困ること・工夫 等)。 ③身ぶりゲーム、手話体験。</p>
内 容	     
☆アイマスク体験	<p>日 時：平成30年10月15日(月) 4-1組：10:40～12:15・4-2組：8:45～10:20 場 所：秦荘西小学校教室・廊下 等 指 導：社協職員 内 容：①視覚障がいについてのお話 ②視野狭窄・弱視・全盲について、各メガネ等を使用して体験。 ③アイマスクを使用し、学校内でガイドヘルプ体験。</p>
☆点字体験	<p>日 時：平成30年10月17日(水) 2クラス合同：10:40～12:15 場 所：秦荘西小学校・ランチルーム 指 導：浅野征三さん(視覚障がい当事者) 内 容：①浅野さんのお話(生活上の困りごと・工夫 等)。 ②点字について・体験。 ③児童からの質問時間。</p>

☆秦荘東小学校

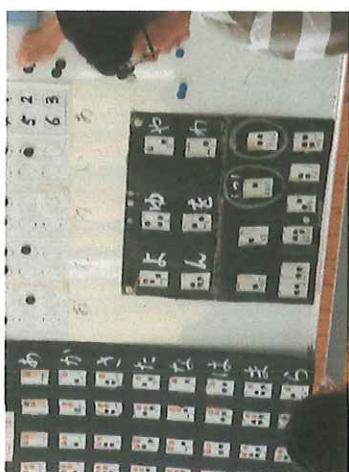
【4年生2クラス(47名・A組23名・B組24名)】 ☆アイマスク体験

日 時：平成30年9月27日(木)

4-A組 13:45～15:20・4-B組 9:30～11:30

場 所：秦荘東小学校教室・廊下 等
指 導 内 容：

- ①視覚障がいについてのお話。
- ②視野狭窄・弱視・全盲について、各メガネ等を使用して体験。
- ③アイマスクを使用し、学校内でガイドヘルプ体験。



☆点字体験

日 時：平成30年10月18日(木)

2クラス合同：9:30～11:30

場 所：秦荘東小学校・教室
指 導 内 容：

- ①浅野さんのお話(生活上の困りごと・工夫 等)。
- ②点字について・体験。
- ③児童からの質問時間。

☆手話体験

【3年生2クラス37名】

日 時：平成31年2月25日(水)

2クラス合同：10:45～12:20

場 所：秦荘東小学校・教室
指 導 内 容：

- ①聴覚障がい者の生活の様子がわかるDVD 視聴。
- ②当事者からのお話(生活上の困ること・工夫 等)。
- ③身ぶりゲーム、手話体験。

☆秦荘中学校

【2年生3クラス70名】
☆手話体験

日 時：平成31年1月28日(月)

3クラス合同：9:55～11:45

場 所：秦荘中学校・多目的室

指 導 容：①手話サークル「ゆびゆり」のみなさん
②当事者からのお話(生活上の困ること・工夫 等)。
③身ぶりゲーム、手話体験。



内 容

☆愛知高等学校

【2年生4クラス120名（4日間に分けて）】
☆施設見学を中心とした福祉学習

1日目

日 時：平成30年12月10日(月)

10:10～11:40

場 所：福祉センター愛の郷

内 容：①施設見学（わんぱくひろば・作業所）。
②災害ボランティアについてのお話・DVD 視聴。



2日目

日 時：平成30年12月12日(水)

10:10～11:40

場 所：福祉センター愛の郷

内 容：①施設見学（わんぱくひろば・作業所）。
②災害ボランティアについてのお話・DVD 視聴。



内 容

3日目

日 時：平成30年12月18日(火)

10:10～11:40

場 所：福祉センター愛の郷

内 容：①施設見学（デイサービス・作業所）。
②災害ボランティアについてのお話・DVD 視聴。

4日目

日 時：平成30年12月19日(水)

10:10～11:40

場 所：福祉センター愛の郷

内 容：①施設見学（わんぱくひろば・デイサ-ビ-ア）。
②災害ボランティアについてのお話・DVD 視聴。



地域を守る災害支援プロジェクトの取り組み報告

愛知川ニュータウン自治会と松尾寺南自治会をモデル地区として、それぞれの地域の実情に応じた地域防災の取り組みに向けて、自治会役員の方々を中心にプロジェクト推進委員も参加して協議を重ね、住民主体の活動に向けて少しづつ進めることができました。

◇愛知川ニュータウン自治会

○全世帯対象の「防災行政無線放送」の設置状況に関するアンケート調査の実施に向けて、町危機管理対策室の担当職員にも参画していただき、防災行政無線放送の現状と今後の動向について聞かせていただくとともに、地域での自主防災活動について助言をいただきながら、できることを検討しました。

- ・防災行政無線放送の役割や災害時等での情報収集のツールとして活用
- ・防災行政無線放送の存在そのものを知らない方もおられる。
- ・避難情報が出ていても実際に避難されている方はいない。
- ・実際に被害も出でないので大丈夫だろうとの認識。
- ・アンケート調査をきっかけとして、自治会活動、福祉活動に繋げていくことが大切。
- ・住民同士の繋がりがない。10年、20年先は高齢世帯が多くなる。
- ・地域での自主防災組織があると良い。

○これまでの取り組みと課題整理

- ・防災行政無線放送の設置状況に関するアンケート調査の実施について、自治会定例会にて、区長さんより各組長に提案、依頼されたところ、組長さんからいろんなご意見をいただく中で、そもそも防災意識を持っておられる住民さんが少ないことがわかった。
- ・多くの住民に我が事として災害・防災について意識してもらえるためには？

○次年度に向けて

- ・住民に防災意識を持ってもらえる広報、啓発活動について協議して取り組む。
- ・将来的に自主防災活動の組織化に向けて、自治会内での協力者を増やしていく。
- ・命のバトンの活用。



◇松尾寺南自治会

○地域の見守り、交通安全、防犯対策などを含めた活動として、自治会役員による字内の危険箇所の確認活動を実施されました。

- ・土砂災害危険区域や、名神高速道路からの排水、役員さんも知らなかつた貯水槽を発見するなど、実際に確認することで知らなかつた危険箇所を把握することができた。
- ・台風21号により、神社境内の倉庫が倒壊。一部住宅の屋根が損壊するなどの被害が出たが、けが人や避難する住民はいなかつた。

○自治会内危険箇所マップの作成

- ・サポート会議にて、確認した危険箇所と子どもの通学路上での危険箇所を含めて、住宅地図の落とし込む作業を行ない、危険箇所マップを作成し、草の根ハウス内に掲示。
- ・危険箇所マップ作りをすることで、自治会役員間での共通認識ができた。
- ・マップを多くの住民に知ってもらいたい。

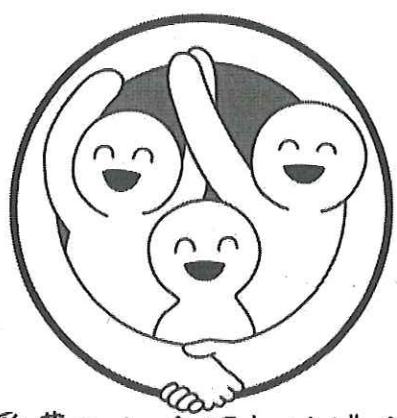
○これまでの取り組みと課題整理

- ・災害に特化せず、交通安全、防犯対策、鳥獣被害、高齢化問題など課題は多い。
- ・自治会内での安全、安心を考えた活動として、飛び出し坊や5体を幼い子どもがいる家庭の前に設置された。空き巣被害も出ているので、補助金を活用して防犯カメラの設置も検討されている。
- ・自治会の防災計画及び規約が整備されており、災害時等の避難行動のひな形でできているので、見直しを図り今後の防災活動にも活かしていきたい。
- ・消防団や女性にも関わってもらえると良い。
- ・自治会の活性化、居場所作り。サポート会議のメンバー構成の在り方。

○次年度に向けて

- ・危険箇所マップの周知と活用方法などの啓発活動を検討し進める。
- ・自治会防災計画・規約の見直しと避難訓練の実施
- ・命のバトンを活用した世帯状況の把握。





いわつか町社会福祉協議会